

京都学園大学京町家「新柳居」連続セミナー

和の文化と生き物文化の再生

キクタニギク、フタバアオイ、チマキザサなど、京の文化を支えてきた植物が軒並み激減。それぞれ、保全再生の取組みは始まっていますが、課題は山積。この状況を広く市民のみなさんに知っていただき、担い手の交流と拡大および産公民学連携を推進し、議論の中から新たな展開を見出そうと、全6回の公開連続セミナーを企画しました。ご関心の回だけでも構いませんので、どうぞお越しください。

2016 2017
日程 10/4・11/1・11/29・12/13・1/17・2/7

時間 各回とも 18:30～20:00 (受付開始:18:00)

場所 京町家「新柳居」

京都市中京区新町通
錦小路上ル百足屋町384

- 阪急京都線 烏丸駅 徒歩約6分
- 地下鉄烏丸線 四条駅 徒歩約6分
- 地下鉄烏丸線・東西線 烏丸御池駅 徒歩約10分



応募方法

申込フォームよりご応募ください。QRコードが読めない場合は、お電話でお申し込みください。お電話の場合は、お名前・電話番号・参加日・応募のきっかけとなった広報媒体 (HP・チラシ・ポスター) をお伝えください。

定員
各回30名
先着順

右のQRコードからもお申込みいただけます。



10月4日(火) 藤袴プロジェクトの展開に向けて

- 話題提供：藤井 肇 氏 (大原野森林公園森の案内人)
- コメンテータ：藤野 適宏 氏 (大原のオオムラサキを守る会)

「源氏物語」千年紀で盛り上がった野生系統のフジバカマを継承する活動のキーパーソンがフジバカマサミットを振り返り、環境省の「重要里地里山500」選定を期に今後の展開を考えます。

11月1日(火) 市民・学校・植物園と大学による『環』の花保全：オオキンレイカでの実践例

- 話題提供：瀬戸口 浩彰 氏 (京都大学・院・人間環境研究科教授)
- コメンテータ：佐藤 正吾 氏 ((公財)京都市都市緑化協会企画総務課長)

遺伝子の多様性にも配慮した絶滅危惧種の域外保全や野生復帰をどうすすめるのか。オオキンレイカを事例に、地域での学校や専門家、行政等の連携した取組みの意義と、希少種保全の展望を語ります。(本研究は環境省・環境研究総合推進費 1403で行いました。)

11月29日(火) キクタニギクの咲く菊溪川の再生へ

- 話題提供：中筋 祐司 氏 (京都市産業観光局林業振興課森林保全係長)
- コメンテータ：佐藤 正吾 氏 ((公財)京都市都市緑化協会企画総務課長)

かつて文人にも好まれ、京都東山は高台寺十境の一つの菊溪川に咲き乱れていたという絶滅危惧種キクタニギク。京都伝統文化の森推進協議会がキクタニギクの咲く菊溪川の再生に乗り出しました。

主催：京都学園大学 共催：公益財団法人京都市都市緑化協会
後援：京都市、特定非常利活動法人KES環境機構

企画の問い合わせ：森本幸裕 morimoto@kyotogakuen.ac.jp, 佐藤正吾 shg@kyoto-ga.jp

12月13日(火) 企業と生物多様性： 『和の花』保全再生の社会的展開

- 話題提供：津村 昭夫 氏 (KES環境機構専務理事)
- コメンテータ：井上 和彦 氏 (京のアジェンダ21フォーラム)

京都発の「環境マネジメントシステム」の規格KESに登録する事業者によって、京都市生物多様性プランに基づく、自社の主体的な環境活動として京都の文化にゆかりのある希少植物の育成が始まりました。

1月17日(火) フタバアオイを考えるー コモンズ論の視点から

- 話題提供：秋道 智彌 氏 (総合地球環境学研究所名誉教授・葵プロジェクト副理事長)
- コメンテータ：畑田 彩 氏 (京都外国語大学准教授)

葵祭に不可欠のフタバアオイの激減に対して、里親として育てて「葵の森」を再生する葵プロジェクトが盛り上がっています。これを契機に地球環境時代のコモンズとしての生態系とその継承を考えます。

2月7日(火) チマキザサ保全活動の現状と 将来的な展開の検討

- 話題提供：東口 涼 氏 (京都大学・院・GSS)
- コメンテータ：中筋 祐司 氏 (京都市産業観光局林業振興課森林保全係長)

祇園祭の厄除け粽(ちまき)を媒介につながってきた京の町と里山の花背集落。里山問題と鹿食害による伝統文化継承の危機にどう立ち向かうか。様々な模索を続ける中にこれからの可能性を探ります。

すべては学生のために